KUT OB OG INTERVIEW 2023 17 WINTER

関大での学びと人々の支えが、世界を広げてくれた。すべてを糧に、パリオリンピックを目指す。

株式会社YMIT契約アスリート
（セーリング女子49erFX級）
高野（たかの） 芹奈（せな）さん
人間健康学部人間健康学科 2022年卒

2024年パリオリンピックへの道――アスリートとしての自信を忘れずに

私は株式会社YMIT（ワイミット）の契約アスリートとして、セーリング種目の49erFX級でパリオリンピックを目指しています。リオデジャネイロ、東京に続く3度目の出場で、ペアを組む山崎アンナと共にメダルレース進出を狙っています。

代表の選考は2023年の夏から始まるのですが、現在はまず3月のヨーロッパのシーズン明けに向けたトレーニングをしています。明るいうちは船の修理や調整をしたり、海に出て帰ってきたらジムに行く、というのをだいたい午前9時から午後6時ぐらいまでやっています。ヨット競技では、基本的に自分でやらないといけないことが多いんですよ。

セーリングは非常にお金のかかるスポーツでスポンサーの支援がないと競技は続けられません。実は東京オリンピック後には、それまでのスポンサー契約が終わってしまい厳しい状況に立たされ、1年間ずっとスポンサー探しをしていました。

その間に何回も心が折れそうになりましたが、ここでやめるのは日本のセーリング界にも良くないし、次の世代の子たちはどうするんだとか、アンナともいろいろ話をしました。東京オリンピックは悔しい結果に終わったので、もう1回挑戦したいとか、ある意味で本質に迫るところまで考えさせられました。

そのとき心がけていたのは、やはり感謝の気持ちを忘れないこと。そしてアスリートである以上、絶対にその自信を持っておきたいということです。お金を出してくださいというのではなく、競技を通じた社会貢献としてWin-Winの形をサポートしてくれる企業を探していました。

模索を続けるなか、国別対抗のプロリーグSail GPの記者会見で、オリンピックを目指すうえで活動が厳しいと話したことを知ったYMITの社長が声をかけてくれたんです。スポンサーが見つかって他の選手と同じようにトレーニングが始められた今は、やっとスタート地点につけたみたいな感覚です。これからが勝負だと思っています。

父も全力で支えてくれています。昔ゴーカートで全日本チャンピオンになったりと結構がんばっていたこともあって、心から応援してくれています。私の名前はアイルトン・セナからつけてもらったのですが、同じくレーサーとしてヨット競技をしていることも喜んでくれて、もっと輝け、もっと上を目指せと、いつも後押ししてくれます。

いろいろな世界を見ることへの憧れが、セーリングに繋がっていた

関西大学には、一歳上の姉が通っていました。友達がたくさんできて、マルチにいろいろな世界を見ている感じに憧れて、入りたいなと思いました。

学生時代は、人間健康学部でスポーツ・健康・福祉について学びました。筋肉のことやコーチング論、運動する際にどこまで追い込めるのかなど、科学的な面からいろいろ学べたことは、セーリングにも繋がったかなと思います。

大学では感性についての授業もとったりしたのですが、それがスポーツにおいてとても大事だということも学びました。セーリングは自然を相手にするスポーツなので、感性が豊かでないとベストな動きができなかったりとか、実際に受けてみたらすごく役に立った内容がたくさんありました。

また履修を組むうえでは、事務室の方には大変お世話になりました。海外遠征の際は先生にもご理解いただき、また友達にも助けてもらって、いろいろと周りの人に支えられてやっていた、という感じです。

後輩たちに伝えたいこと── いろいろな人と話し、海外にも挑戦を

関大は学部が多いので、いろいろな学部の友達と質の良い会話をしてみることが、やりたいことを見つけるきっかけになると思います。こんな自分になりたいみたいなイメージも、他の人を見ることでどんどん湧いてくると思うので。人と話す時間を大事にして毎日を過ごせれば、有意義な時間を過ごせ、より充実した学生時代になると思います。

海外に行くといろいろな考え方を持っている人に出会えるので、それが自分の殻を破ってくれる材料になります。一方で海外に対して萎縮してしまう自分もいて、なぜかと考えると、向こうの人のほうが上だと脳内で思っていることに気づくんです。でもまず、それをやめる。

私は、新しい世界を見るという意味で、海外でさまざまな経験をしたほうが絶対に良いと信じています。実際に活動してみると、なんでこんなことに気づかなかったんだみたいなことが何度もあったので、本当にいい刺激になると思っています。

セーリングでは本当にいろいろな要素で勝負が決まるんですが、日本人ってディテールを直そうと、目的や目標を忘れてしまっている場合が多い気がします。実際に私達も、目的地に一番早く着けばいいだけなのに、相手より速く走ろうということが一番になって、小さい部分だけを見てしまうみたいなことがよく起こるんですね。

海外の人たち、特にトップセーラーたちは絶対に目標を見失わないというか、トレーニングでも船の作業でも、なぜそれをするのかがブレないということを感じます。だから成績もマインドも安定していて、あれもこれもやらなきゃみたいなパニックが起きないんだと学びました。

なりたい自分になるために。必要なのは、経験からくる自信

座右の銘は“Fake it till you make it.”です。なりたい自分の姿があるなら、すでにそうなったかのように振る舞え、という意味です。自分のなかには、私は本当にトップセーラーになれるのかと疑問を持つ自分もいて、それが選択の場において邪魔してくることがあるんですね。

トップセーラーになるには勝てると思える自信が必要で、それは経験からくるものだと思っています。その経験をするかしないかは自分次第で、判断するときに、やってみよう、経験を増やしてみよう、とチャレンジすることが重要です。

自信がなくても、自分はできると思ってまずはやってみる。やっているうちに経験が増して相手にも認められるようになり、いつの間にかなりたい自分になれていた、みたいなストーリーが頭のなかにあります。たとえ自信がないことでも、私ならできると、挑戦する気持ちで日々課題に取り組んでいます。

どのアスリートもそうだと思うんですが、トップを目指す限りは、本当に自分との戦いです。セーリングは意思決定の多いスポーツなので、なぜそういう考えに至ったのか、どんなセーラーになりたいのかと、深いことを考える時間が増えてきますね。でも私はまだまだかな、という部分もあるので、毎日いろいろ試行錯誤して良い方向に進んでいくのみだと思っています。セーリングの技術も筋肉も育てていますが、今は頭のなかというか考え方を修正しようとしています。そこでビックジャンプすることで次のオリンピックに出場して結果を残せると思っているし、一番の目標です。

自然の風だけで進むヨットのレースは、状況次第で想像できないような展開もたくさんあるので、それを楽しみながら見ていただければと思います。また、もしセーリングをしてみたいなら、どこかのヨットハーバーに行けば絶対に乗れるし、日本は海に囲まれた国なので、そんなに難しくないと思います。少しでもセーリングに、そして私たちの活動にも興味を持っていただければ嬉しいです。

「あなたにとって関西大学とは？」

ひと言でいうと「大阪の青春の場」ですね。みんなが楽しく集まって、ちょっとお祭りみたいな感じで何かやろうとしているというか、行くことで人生がもっと華やかになるようなイメージがあります。

今は海外や関東に行って帰ってくると、関西弁にほっとするというか、ノリやツッコミがばっちりあって、むっちゃ繋がる気がします。みんなが喋っている雰囲気がすごく心地良くて、本当に私の居場所だなと感じますね。

※高野芹奈さんと山崎アンナさんのチーム「Ansena」のSNS
Facebook：Ansena Sailing https://www.facebook.com/ansenasailing
Instagram：team_ansena https://www.instagram.com/team_ansena/

関西大学東京センター
100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー9階
TEL：(03) 3211-1670（代）FAX：(03) 3211-1671
https://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/

公式website　公式Facebook　公式Twitter　LINEスタンプ　LINEスタンプ（関大ライフ編）

KUT OBOG Interview 2023-Winter
＊無断転載を禁じます。
発行・監修｜関西大学東京センター
企画・協力｜校友の皆さん
お問合せ先
ku-tokyo@ml.kandai.jp